

新年に向けた三嶋大社のしめ縄作り＝三島市、全日写連・高根美奈夫さん撮影



# 県内の「北」でも…

## 一字一筆

静岡の今

あなたにとって、今年はどうな年でしたか。年末になると人はよく今年一年を振り返る。毎年、京都・清水寺で発表される日本漢字能力検定協会の公募による「今年の漢字」は「北」だった。弾道ミサイル発射や

核実験など北朝鮮による脅威などが選ばれた理由という。

今年は、静岡県でも「北」に印象深い話題があった。文字通り県最北部を舞台に、紙面をにぎわしたのは「リニア中央新幹線」だ。県都・静岡市葵区内とは言葉、南アルプスの山中をトンネルで通過するだけの計画に、正直言って県民の関

心は薄かった。トンネル掘削による大井川の水量や自然環境への影響を懸念する人たちの反対運動はあったが、今年秋になって川勝平太知事が記者会見などで「自然環境への対応が不明確」などと問題提起して、にわかに県民の関心が高まった。

そこに工事をめぐるゼネコン大手建設会社による談合疑惑が浮上、12月に東京地検特捜部と公正取引委員会が強制捜査に着手した。総工費9兆円と言われる巨大工事が談合による不当利潤でむしばまれていたとすれば、その付けは利用者の運賃にも跳ね返る。

県西部の浜松市一帯はこの一年、NHK大河ドラマによる「直虎効果」に沸いた。北区の大河ドラマ館には目標の50万人を超える70万人が来館。井伊家ゆかりの龍潭寺の拝観者は3倍になった。ブームの核心となったのは「湖北」。浜松市は掘り起こされた地域資源を地域振興に生かしたいとしている。

暮れの23日、県東部の富士宮市では県富士山世界遺産センターがオープン。「逆さ富士」の奇抜なデザインで、新年から本格的に霊峰富士の文化を世界に発信する。三嶋大社は20日、総門に約400本のジャンボしめ縄が飾られ、60万余人の初詣客を迎える。良いお年を。

前静岡県監査委員・  
富永久雄